

会報

2025
No.11

目次

巻頭言	1
ごあいさつ	2
東北地区里親研修会 秋田大会の写真集	3
里親体験記	6
ファミリーホームどんぐりインタビュー	7
里親を応援する会より	8

巻頭言 東北地区里親研修会 秋田大会に参加して



児童養護施設 陽清学園
園長補佐
村上 賢一さん

〔略歴〕

東京でホームレス自立支援事業に携わったのち秋田へUターンし2004年児童養護施設 陽清学園に就職。2020年より福祉サービス第三者評価調査者としても活動中。

〔資格〕

こども家庭ソーシャルワーカー、社会福祉士、精神保健福祉士

7月下旬、夏祭りの熱気に包まれる秋田市の中心・アトリオンにおいて、令和7年度東北地区里親研修会が開催され、竿燈まつりを間近に控えた街に東北各地から多くの里親さんが集い、学びと交流のひとつときを分かち合いました。

初日の記念講演では、秋田県医師会会長・小泉ひろみ氏が「子どもの声を聴く」と題して登壇されました。「子どもの気持ちを聞く、聴く。少しでも、子どもの思いを汲み取ることが大切」との言葉に、会場の参加者は深くうなずいていました。続く基調講演では、全国里親会会長・河内美舟氏が全国的な動向や課題を示し、里親養育の今後を見据える大切な視点が提供されました。パネルセッションでは、聖霊女子短期大学の大曾教授が「幼児期の食育と睡眠」をテーマに、自分自身日々の養育で見過ごしがちになる“食と睡眠”の重要性を改めて確認することができました。さらに同大学の野内教授からは「困難を抱えた児童の教育支援」について、里親さん自身が心穏やかであることが子どもにとっての“安全基地”につながるとの示唆があり、印象深い学びとなりました。同じ頃には『子ども企画』として、スタッフと子どもたちが秋田県立博物館を見学。縄文文化の展示に「これ見たことある！」と目を輝かせたり、実物資料に触れて驚く姿も見られ、秋田の歴史や自然に親しむ豊かなひとときとなりました。

夜の交流会では各地区の里親さんと里子さんが円卓を囲み、おいしい食事や飲み物を堪能。遠く男鹿から“なまはげ”が登場するサプライズもあり、会場は大いに盛り上がりました。里子さんたちが歓声を上げたり、少し怖がりながらも笑顔を見せたりする様子に、秋田らしい温かさや賑わいが広がりました。私自身も仙台里親会のご家族と席を囲み、笑顔あふれる楽しい時間を過ごすことができました。こうした交流の場が、里親さん同士の絆をさらに深めていることを実感しました。

二日目は、「私たちの現在を語る・子どもたちの安全基地をめざして」と題して高階親子へのインタビューが行われました。委託当初から今日までの悲喜こもごもの歩みを、飾らず率直に語り合う二人の姿に、会場の多くが胸を打たれました。さらに、地域での居場所づくりにも取り組んでいることが紹介され、地域に根ざしたつながりが、子どもと里親さん双方にとって大きな支えになることを改めて感じました。続いて東北各地区の里親会会長さんが、それぞれの活動や課題を報告・提案し、地域ごとの取り組みを共有しました。

二日間にわたる研修会は、「ガッツリ研修、ガッツリ交流」のテーマどおり、学びと出会いに満ちた時間となりました。講師の先生方からの貴重な講演を通じ、里子さんの心と体を支えるために欠かせない視点を改めて学び、また子ども企画や交流会、親子インタビューや地区報告などを通じて、子どもの養育は決して一人で担うものではなく、仲間や関係者と共に歩む営みであることを強く実感しました。

今回の開催は岩手県盛岡市です。今回秋田で育んだ絆を、来年は盛岡の地でさらに深め合えることを楽しみにしています。

あなたを必要としている子どもがいます

はじめませんか
“里親登録”

養育 里親

保護者のいない子どもや虐待などの理由により保護者が養育することが適当でない子どもを養育する里親です。（里親研修を受講する必要があります。）

専門 里親

虐待を受けた子どもや障がいのある子どもなど、専門的な援助を必要とする子どもを養育する里親で、養育里親として3年以上の委託児童の養育経験が必要です。（専門里親研修を受講する必要があります。）

親族 里親

実親の死亡や行方不明などで、祖父母などの三親等以内の親族が子どもを養育する場合の里親です。

養子縁組 里親

養子縁組によって養親となることを希望する里親です。（秋田県では里親研修を受講する必要があります。）



秋田県里親連合会

皆さま、こんにちは。この4月に地域・家庭福祉課長に着任した佐藤です。日頃から子どもたちの成長を温かく見守ってくださり、心より感謝いたします。

さて、皆さまもご存知のとおり、現在、里親委託の推進については、全国的に大きな転換期を迎えています。各都道府県等が見直し、新たに策定した「社会的養育推進計画」において、多くの都道府県等が、里親等委託率を国の目標水準まで引き上げていくこととしており、秋田県も同様の目標値を設定しました。その目標達成に向けては、里親制度の今まで以上の普及啓発や、トレーニングも含めた里親支援の更なる充実が欠かせません。そのため、県では、令和7年10月1日に里親支援センターTOMONY(トモニー)を設置し、里親・里子への一貫した包括的支援体制を整備したところです。まだ立ち上げたばかりで、課題も見えてくることと思いますが、センターが皆さまと関わらせていただくことで、皆さまと「ともに」成長していき、かけがえのない存在となれるよう邁進していく所存でございますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



令和7年度 里親応援カレンダー

申込みは直接主催者へ



すでに里親登録されている方だけではなく、里親に興味のある方のご参加も大歓迎です。
里親制度について、お話ししてみませんか？
※陽清学園と秋田赤十字乳児院では、里親応援カレンダーに記載されていないサロン・トレーニングも計画しております。



県北地区

主催：陽清学園

- 第1回 5/18(日) 10:00~12:00
子どもとの交流／茶話会
- 第2回 10/12(日) 10:00~12:00
※5日から12日に変更になりました
【合同サロン】
ものづくりを通じて、子どもと交流
- 第3回 1/18(日) 10:00~12:00
ミュージックケアで子どもと交流／茶話会



県南地区

主催：秋田県フォースタリング機関

- 第1回 6/28(土) 13:00~15:00
体験! リズム遊び／茶話会
- 第2回 9/6(土) 13:00~15:00
みんなでカラダを動かそう／茶話会
- 第3回 11/15(土) 13:00~15:00
【合同サロン】準備中



県中央地区①

主催：聖園天使園

- 第1回 5/17(土) 13:00~15:00
養育里親を深ぼり！
- 第2回 8/23(土) 13:00~15:00
【合同サロン】
施設心理士に聞いてみよう！
- 第3回 11/22(土) 13:00~15:00
子どもとの生活を考えよう



県中央地区②

主催：感恩講児童保育園

- 第1回 9/6(土) 13:00~15:00
●子どもたちの生活を知ろう
●子どもとの交流
- 第2回 12/14(日) 13:00~15:00
【合同サロン】生教育を考えよう
- 第3回 3/13(金) 13:00~15:00
●子どもを知ることから始めよう
●子どもとの交流

※詳細は各施設のHPまたは、各地区のMENUをご確認ください

ブラウブリッツ秋田ホームゲームにご招待

子供たちのすこやかな成長・発達には、特定の大人の愛情を受けて育つこと、「家庭」と同様の環境で育つことは必要だと言われています。しかし現実には、様々な事情で保護者と離れて暮らしている子供たちが数多くいます。

ブラウブリッツ秋田は、秋田の子供たちの明るい未来を実現すべく、里親制度の普及活動並びにホームゲーム招待という形で支援させていただきます。

秋田県内の里親制度利用者のご家族を2025シーズンホームゲームにご招待します。

※ホームゲーム招待に関するお問い合わせは、秋田県里親連合会までご連絡ください。

BLAUBLITZ
AKITA





令和7年度 東北地区里親研修会秋田大会の写真集

7月26日(土)・27日(日)アトリオンで開催された東北地区里親研修会秋田大会の風景を写真集にまとめました。

7月26日(土)



受付の様子



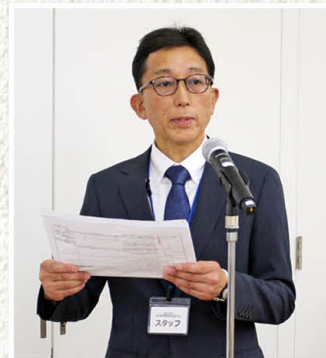
〈式典〉ご来賓の皆様



〈式典〉主催各県会長と全国里親会会長



〈式典〉秋田市議会議員の皆様



〈式典〉総合司会 伊藤さん



〈式典〉秋田県知事挨拶



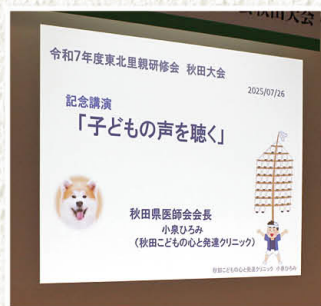
〈式典〉秋田市子ども未来部 部長挨拶



〈式典〉受賞者の皆様



〈式典〉表彰



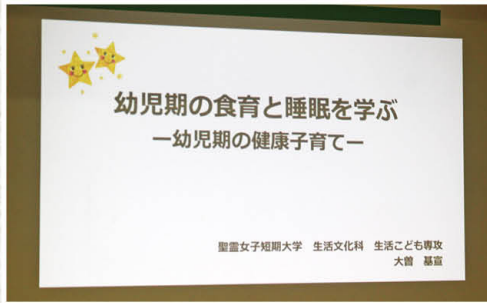
〈記念講演〉「子どもの声を聴く」 小泉 ひろみ氏



〈基調講演〉 公益財団法人 全国里親会会長 河内 美舟氏



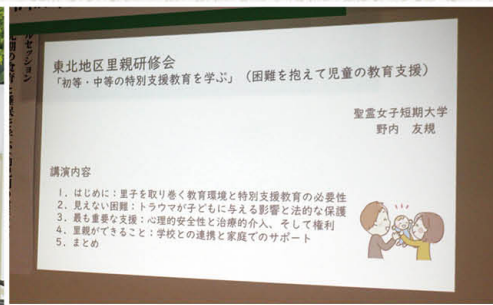
〈パネルセッション〉 司会 千葉さん



〈パネルセッション〉「幼児期の食育と睡眠を学ぶ」大曾 基宣氏



〈パネルセッション〉「初等・中等の特別支援教育を学ぶ」野内 友規氏



7月27日(日)



〈親子インタビュー〉
私たちの現在を語る・子どもたちの安全基地を目指して！
高階 敦子・拓哉氏



聞き手 藤田ゆうみん氏

令和7年度東北地区里親研修会

本日の流れ

10:30～10:35 本日の流れ説明と登壇者紹介
 10:35～11:10 各地区会長からの活動紹介（1人5分）
 11:10～11:20 各地区会長同士で質問と回答
 11:20～11:25 会場の皆さんからの質問と回答
 11:25～11:30 本日のまとめ



〈東北各地区里親会長パネルセッション〉東北地区里親会の現状と課題 各地区活動の特徴と課題について報告と提案



各県発表司会 伊藤さん



メッセージは聖園天使園・感恩講・陽清学園の子どもたちが作ってくれました



来年8年度は岩手県開催です

各地区里親会の

活動紹介

秋田県北里親会

会長:佐藤弘道 連絡先:阿部悦男 電話:090-3129-5478

当会は、普段から会員が気軽に話せる雰囲気のできる会です。



秋田中央里親会

会長:大日向賢治 連絡先:伊藤博信 電話:070-1440-2921

当会は40組(個人、夫婦)のメンバーが楽しく気楽に子育てをしていくための集まりです。テーマはいつも里親を楽しもう!!



秋田県南里親会

会長:高階敦子 連絡先:高階敦子 電話:0182-32-7764

里親は、子どもたちの安全基地でありたい。県南に子どもの安全基地を増やしていこう!



里親体験記

県南里親会 副会長 伊藤 健太郎

— 突然、“子ども3人”の親になった話 —

「実は里子をお願いしたくて…。兄妹なんです、いかがでしょうか？」

小さな驚きとともに、一気に家族が増えることを想像し、背筋がゾワッとしたことを覚えています。と同時に、「ちゃんと養育できるのか？」という不安や疑問が浮かぶ前に、「何を準備しないとイケないのか？」をすぐに考え始めてしまった時点で、答えは決まっていたようなものでした。

「私達で良ければ、お受けします。」

こうして新たな家族2人を迎えるための、準備が始まりました。

我が家は夫婦ともども、仕事の関係で秋田へと来ました。すでに実子の男の子1人がおり、秋田での生活が慣れた頃に里親登録を行いました。「せっかくなら里子を受け入れてみようか」という軽い気持ちで受講、そして登録。また、実際に委託をお願いされるまでに時間もかかるかと聞いていたので、気長に待つつもりでいました。

ところが、登録から1年後、冒頭のように「2人の里子」をお願いされるという、我が家の人生設計に全く予想もしていないことが起こりました。というより、普段の生活において「家族5人」の想定をしていなかったもので、交流期間や正式な委託後は家具、寝具、洋服などなど、あらゆるものを「増やす」ことがしばらく続きました。

一緒に生活を始めてしばらくすると、一般的な家庭で身につけた生活スタイルと施設で身につけた生活スタイルの違い、特に食事面で困惑することが多かったです。

まず食べ物好き嫌いが全然分かりません。里子のお兄ちゃんは、施設から好きだと聞いていたものを食べなかったり、以前は食べていたものをあまり食べなくなったり…。本人の中では基準のようなものがあるみたいですが、説明できる年齢でもないため、何をせば食べてくれるのか、かなり長い間、不安な中で食事を提供していました。

里子の妹ちゃんはさらに困った状況で、食事に嫌いなものがある、または嫌いな味だった場合、食事が進まず、ほぼ手が止まります。一般的に、嫌いなものがあつたら、量を少なくするように言うとか、あまり良くはありませんがお皿の中で別にするとか、子どもなりの対処方法は色々あると思います。しかし、そういうことをせずにボーッと椅子に座り、少し口に入れては食器で遊ぶ…の繰り返し。ある日、あまりに時間がかかるので「このご飯、どうするの？」と聞いたら、「食べられないから捨ててください。」と言われた時は、妻が鬼に変化しました…。

こうして書けば、大したことはない普段の生活の一コマです。しかし、これを毎日のように繰り返されると、流石に疲弊します。それまでの施設での生活、そして幼いが故の理解力の乏しさなど、個々人に非がないことは当然としても、こちらもただの人間。時にキツク言うてしまうこともあり、込み上げてくる怒りの処理に精一

杯なこともありました。

ですが、時間の経過とともに、施設での生活と家庭での生活の「ズレ」を把握できるようになり、精神的なゆとりが出てきました。そういうゆとりが出てくると、3人の子ども達の良い面も少しずつ「見える化」されていきます。また、意外だったのは、男の子2人よりも男女3人になってからのほうが子守り中の対応が楽なことです。「3人寄れば公界（くがい）」とも言いますが、小さいながらも3人に増えると、社会のようなものをつくることで、親と子の関係性だけでは見えなかった社会の中で生きてくる個性が「増えた」ようにも感じています。

ここで少しだけ実子の長男にも触れさせてください。急に増えた弟と妹を、複雑な気持ちを持ちながらも受け入れたことは並大抵のことではなかったと思います。仕事の関係で、私か妻がいない

時には、率先して自分が「父親または母親」であらうとします。その役を頑張り過ぎて、逆に長男が怒られるのもまたご愛嬌。本人なりに弟と妹を受け入れるために努力をしているのが、しっかりと伝わってきます。そんな彼がいたからこそ、「家族5人」になれたのだと心の底から思います。本当にありがとうな。

社会自体が目まぐるしく変化をしていく中で、これまで以上に「適応力」が求められているように感じます。その意味では、我が家の子ども達は、すでに大きな変化を経験しており、適応力を十分に発揮しているでしょう。せっかく我が家に来たのだから、これからも様々な経験をしてもらい、いずれ社会に出た時に少しでも精神的にタフになってくれたら良いなと親としては願っています。さて、今日もそろそろ3人のお迎えです。今日は何をしてきたのかな。それでは、最後までお読みいただき、ありがとうございました。



実家に帰省した際は、祖父母も喜んで子ども達を迎えてくれます。



夏祭りでお面をかぶりポーズする里子達



図書館で本を読む子ども達

ファミリーホーム どんぐりインタビュー



聞き手：県北里親会 北林 由香

令和7年4月に秋田市山王に秋田県4番目のファミリーホームが開設しましたので代表の嵯峨さんにインタビューしてきました。

現在3人の里子さんを養育中です。そのほかに一時保護のお子さんの受け入れも行っています。

Q1. 設立までの経過をお聞かせください。

A 里親をしながら、認可外保育所を運営していました。その時から一時保護の子どもたちを受け入れていたのですが、子どもたちとも関係ができ生活にもようやく慣れてきた頃に、別の施設へ措置されていく子どもたちをたくさん見送ってきました。見送るときは辛いですし、その後の子どもたちはどうしているのかなと今でも気になっていました。

少子化に伴い保育所を利用する子どもたちが減る中、依頼があるのは一時保護の子どもたちです。そのような社会情勢の中、一時保護で来た子どもたちをそのまま措置変更でどんぐりが引き継ぐことが出来ればよいのではないかという思いが募り、ファミリーホーム開設に至りました。



Q2. ホーム名に込めた想いをお聞かせください。

A 認可外保育所の名前が「どんぐり」でした。どんぐりには、立てれば転ぶがまたおきるといったイメージがあります。小さい子どもが元気にコロコロ遊んでいる姿と重なり「どんぐり」にしました。今まで「どんぐりさん」と親しんで呼んでいた名前のことから、ファミリーホームになってもそのまま継承することにしました。

Q3. 養育にあたり思うことをお聞かせください。

A 実の親と離れて暮らしている子どもたちが肩身の狭い思いをしないように、子どもたちの気持ちに寄り添っています。

また、長年子どもたちを見てきて子どもの変化が大きいと感じています。なんらかの障害をもっている子どもさんも増えてきています。子どものことを理解しいろいろなことに配慮しながら養育しています。



訪問を終えて

子どもたちが室内でもゆったり遊べるような空間づくりは素晴らしいと思いました。たくさん子どもさんをみてきた経験がこれからの養育にも生かされていくのだろうと感じました。

お忙しい中訪問させて頂き有難うございました。





秋田県議会議員
たけした ひろひろで
竹下 博英 氏



秋田県議会議員
みaura しげと
三浦 茂人 氏



秋田県議会議員
すずき まみ
鈴木 真実 氏



秋田市議会議員
こぎた きみお
小木田 喜美男 氏



秋田市議会議員
さくち ただお
菊地 格夫 氏



秋田市議会議員
くどう じゅんぺい
工藤 潤平 氏



秋田県議会議員
さと みつこ
佐藤 光子 氏

ともに支え、ともに育む秋田へ

この度「里親を応援する会」に入会させていただきました。日頃から、子どもたちのために大きな愛情と時間を注ぎ込んでくださっている里親の皆様、そしてその活動を支えてくださる応援団の皆様、まずは深く敬意を表します。

県議会ではこれまで、社会的養育を必要とする子どもたちの現状を受け止め、どうすれば「家庭」という温かい居場所を一人でも多くの子どもに届けられるのか、繰り返し議論を重ねてきました。質疑の中で痛感しているのは、制度や数字の達成率の前に、子ども一人ひとりの命と未来に寄り添う大人の存在や意識がとても大切だ

ということです。その思いを胸に、議会でも里親支援体制の強化を訴えてまいりました。

そして本年10月1日、秋田市に「里親支援センター TOMONY」が開設されました。子どもと里親家庭はもちろんのこと、出身家庭や地域社会、そして行政や議会も含め、社会全体で「ともに」子どもを育む。その象徴となる拠点がいよいよ秋田に誕生したということになります。TOMONYの活動を心から期待し、私もその活動に協力したいと思います。

今後は、里親ショートステイなどを含めた多様な委託のかたちを広げること、そして県と市町村が一体となり、地域ぐるみで家庭養育を支える仕組みをつくっていくことが一層重要になってくると考えています。センターを核に、登録から研修、フォローまで一貫したサポートを進め、子どもに「安心できる居場所」を届けていくことが、私たち大人の責任です。

これからも県議会議員として、そして応援する会の一員として、皆さまと心をひとつにしながら、すべての子どもが安心して暮らし、未来に夢を描ける秋田をつくっていきたいと思います。

「里親を応援する会」について

- 1 「里親会」が行う児童との交流、週末・夏休み・冬休み等の短期委託や会員研修、講演会などの活動を支援し、里親制度を推進するため会員を募ります。
- 2 個人年会費……………1口 2,000円以上 法人団体年会費……………1口 5,000円以上
- 3 毎年4月1日～翌年3月31日を会計年度とし、総会にて事業報告決算を報告します。
- 4 ご協力頂いた方のご了解を得て、御芳名、法人名、団体名を「里親会ホームページ」に掲載します。

郵便振込先 《口座番号》02240-5-139089 《口座名》里親を応援する会

編集後記

秋田県里親連合会の役員、県、児童相談所、養護施設などの総力で7年ぶりに東北地区里親研修会を7月に秋田市で開催致し盛会理に終了できました。また、知事のご臨席は他県では例がありません。皆様ありがとうございました。

また、今年10月1日は「里親支援センター」が開設し、これによって支援内容が充実し制度の啓発普及などが強力に推進され、登録者が確実に拡大し里親委託が進んでいくことでしょう。

来年度以降の飛躍に向けて、皆様方の益々のご協力をお願い致します。

製作

秋田県里親連合会 事務局 〒010-0864 秋田市手形住吉町3-6 秋田県子ども・女性・障害者相談センター内

発行 2025年10月20日 TEL 018-827-5200 HP satooyaakita.com

検索

